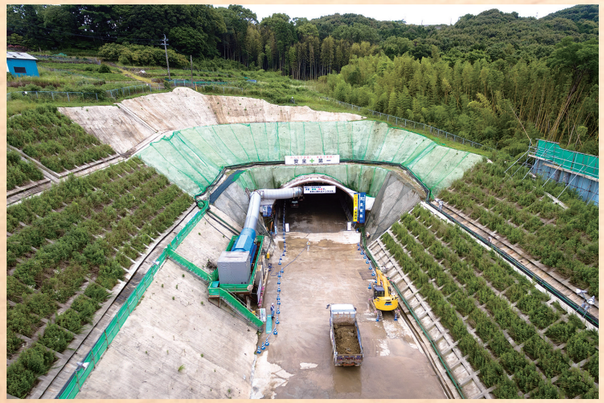
現場百景

ここから生まれる新しい景色

❶ 一般国道34号を跨ぐ貝津橋IC橋建設中

❷諫早IC（写真左上）へ向かって設置された下部工

❸（仮）栗面IC付近 沿線の県営住宅栗面団地を望む



❹（仮）4号トンネル工事推進中

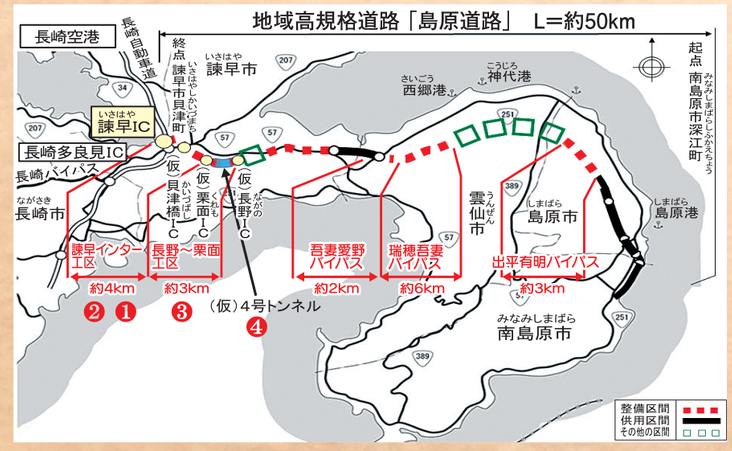
島原道路

「現場では日々新しい景色が生まれている」

梅雨入り宣言されたばかりの6月上旬、島原道路「諫早インター工区と長野～栗面工区」を訪れた。島原道路は、慢性的に混み合う諫早と島原区間をバイパスすることで諫早市内の渋滞を緩和し、かつ到達時間を大幅に短縮するという、今後島原半島の大動脈になる道だ。現場は、前々日より降り続いた雨の影響でややぬかるんでいた。作業員はまばらで「雨が降るとしばらく盛土は作業できないんですよ」と現場の方。梅雨時期は雨が続くためできる工事が限られてしまう。残念ながら盛大な作業風景を見ることはできなかったが、いつも通る国道のすぐ傍で、これだけ大規模な工事が行われていることを知ることができた。

常々私は「現場」を見ることは、心に「植樹」をするようなものだと思っている。植樹をすると、その近くを通るたびにあの木はどうなったかな？きちんと育っているかな？と少しの不安と、期待が入り混じった感覚になる。工事現場も同じだ。近くを通るたびに進捗が気になり、完成後はその立派な姿を見ながら「あの時はまだ土が盛られていたな」などと工事中の現場風景を思い返す。

これらの工区ができあがるのは平成30年度の予定。それまでこの現場は、その姿を何度も変えていくことだろう。私も今後何度となく見に行くことだろう。「大雨が降ると現場が気になる」そういう親心でこの現場を見守っていきたい。



小島健一

二〇〇四年から「大人の社会科見学」をはじめ、社会科見学ブームを作る。長崎の地域振興に関わるため二〇一一年より長崎へ。現在長崎大学インフラ長寿命化センター特任研究員。著書に「社会科見学に行こう」「ニッポン地下観光ガイド」などがある。